

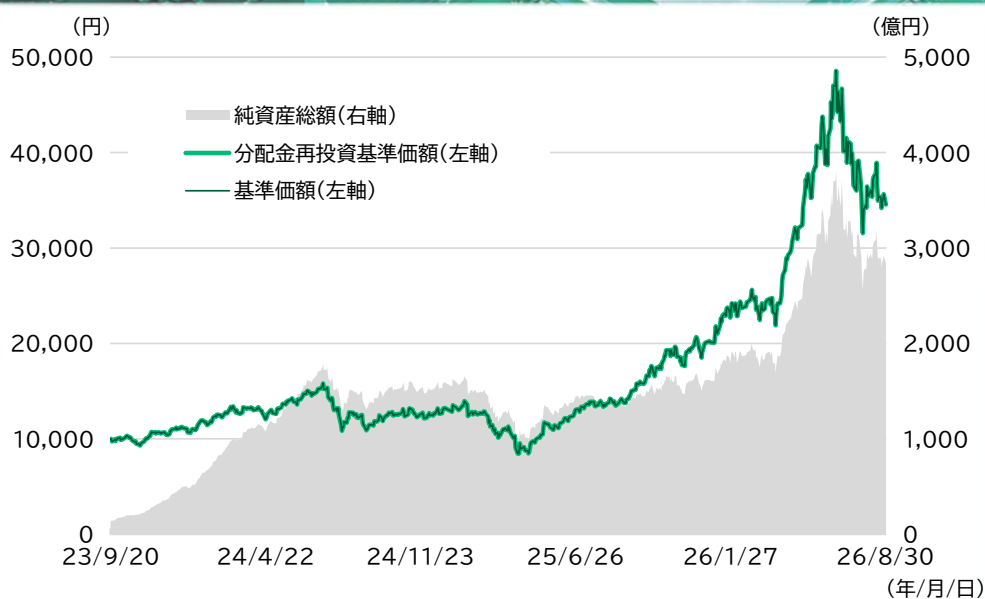
世界半導体関連フォーカスファンド

追加型投信／内外／株式

お知らせがありますので
巻末をご覧ください。

ファンドの運用実績

設定来の基準価額の推移



◆ 基準価額 (1万口当たり)

34,562円

(前月比)

+500円 (+1.5%)

◆ 純資産総額

2,833.8億円

(前月比)

+73.5億円 (+2.7%)

◆ 騰落率

	1カ月前	3カ月前	6カ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	1.47% ▲	14.96%	39.09%	143.21%	－	245.62%
参考指数	3.85%	3.32%	12.94%	33.55%	－	94.37%

◆ ポートフォリオ構成比率

Next Generation Semiconductor Fund (円建て、ヘッジなしクラス)	99.2%
日本マネー・マザーファンド	0.1%
短期金融商品・その他	0.6%

◆ 最近5期の分配金の推移

2024/03/18	0円
2024/09/17	0円
2025/03/17	0円
2025/09/16	0円
2026/03/16	0円
設定来合計	0円

■ 設定来の基準価額の推移

- ・基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。当ファンドの実質的な信託報酬は、投資対象ファンドの信託報酬を間接的にご負担いただくこととなりますので、作成基準日現在、純資産総額に年率1.948%程度を乗じて得た額となります。
- ・分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

■ 騰落率

- ・騰落率は、1カ月前、3カ月前、6カ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。
- ・分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。
- ・参考指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み）[円換算後]です。
- ・参考指数の騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。
- ・参考指数は、当該日前営業日の現地終値を為替レート(対顧客電信売買相場の当日(東京)の仲値)を乗じて算出しております。
- ・MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

■ 最近5期の分配金の推移

- ・分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

■ ポートフォリオ構成比率

- ・構成比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス)の状況(1)

◆ 国・地域別組入比率(上位10)

	国・地域	比率
1	アメリカ	76.1%
2	オランダ	4.3%
3	台湾	3.0%
4	韓国	2.7%
5	ケイマン諸島	2.5%
6	シンガポール	2.4%
7	日本	2.4%
8	イスラエル	2.0%
9	スイス	1.3%
10	ドイツ	1.3%

◆ 通貨別組入比率(上位10)

	通貨	比率
1	米ドル	92.0%
2	韓国ウォン	2.7%
3	日本円	2.4%
4	ユーロ	1.3%
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—

◆ 業種別組入比率(上位10)

	業種	比率
1	情報技術	96.1%
2	資本財・サービス	2.3%
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—

◆ 企業規模(株式時価総額)別構成比率

企業規模	比率
大型株 (200億米ドル以上)	92.3%
中型株 (50億米ドル超 - 200億米ドル未満)	3.4%
小型株 (50億米ドル以下)	2.7%

※株式時価総額の区分は、本資料独自のものであり、将来変更される場合があります。

※各比率は、「Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス)」の純資産総額に対する比率です。

※各比率は小数点第2位を四捨五入しています。

※ニューバーガー・パーマンのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス)の状況(2)

◆ 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：44)

銘柄名	業種	国・地域	比率	騰落率		
				1ヵ月	6ヵ月	5年
1 マイクロン・テクノロジー	情報技術	アメリカ	9.7%	+16.7%	+138.0%	+1837.4%
▶ DRAMやNANDといったメモリに強みを有する米国の半導体メーカー。生成AI向けの高性能メモリなども手掛ける。						
2 ラムリサーチ	情報技術	アメリカ	5.4%	+3.1%	+32.1%	+662.1%
▶ 半導体製造装置メーカー。半導体に溝や穴を掘るために、回路パターン以外の部分を削るエッチング装置に強み。						
3 アドバンスト・マイクロ・デバイセズ	情報技術	アメリカ	4.8%	-0.9%	+140.6%	+517.3%
▶ CPU(中央演算処理装置)やGPU(画像処理半導体)などを製造する米国の半導体メーカー。高いコストパフォーマンスでシェア拡大。						
4 エヌビディア	情報技術	アメリカ	4.7%	+10.2%	+27.6%	+1336.8%
▶ GPU(画像処理半導体)に強みを有する米国の半導体メーカー。生成AIやクラウドサービス需要拡大から恩恵を受ける。						
5 ウェスタンデジタル	情報技術	アメリカ	4.6%	-17.1%	+64.9%	+1276.1%
▶ データストレージ機器を手掛ける米国企業。データセンターなどにHDD(ハードディスクドライブ)を提供。						
6 インテル	情報技術	アメリカ	4.1%	-0.6%	+100.8%	+161.1%
▶ 米国の大手半導体メーカー。コンピューターの頭脳と言えるCPU(中央演算処理装置)の製造に強み。設計のみならず生産能力もあり、半導体の受託生産も手掛ける。						
7 ASMLホールディング	情報技術	オランダ	3.7%	+4.3%	+20.1%	+209.9%
▶ オランダの半導体製造装置メーカー。最先端の半導体製造に不可欠なEUV(極端紫外線)露光装置で独占的なポジション。						
8 ルメンタム・ホールディングス	情報技術	アメリカ	3.2%	+28.4%	+33.5%	+1433.1%
▶ 光学・光通信製品を手掛ける米国企業。データセンターや通信ネットワーク向けに光半導体や光モジュール、光スイッチなどを展開。						
9 マーベル・テクノロジー	情報技術	アメリカ	3.1%	+13.1%	+165.3%	+411.7%
▶ 幅広いデータ・インフラ向け半導体ソリューションを提供するファブレス半導体メーカー。						
10 台湾セミコンダクター(TSMC)	情報技術	台湾	3.0%	+1.3%	+22.1%	+443.5%
▶ 台湾の半導体受託製造専門企業。スマートフォンやデータセンター向け最先端半導体の受託製造に強み。						

※各比率は、「Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス)」の純資産総額に対する比率です。

※各比率は小数点第2位を四捨五入しています。

※各銘柄の騰落率は1ヵ月前、6ヵ月前、5年前の各月の月末との比較。すべて配当込み、円換算ベースにて算出。小数点第2位を四捨五入しています。

※ニューバーク・バーマンのデータおよびBloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが作成しております。

ファンドマネージャーのコメント

◆ 投資環境

当月、グローバル株式市場と半導体関連株指数(フィラデルフィア半導体関連株指数)はともに上昇しました。人工知能(AI)関連投資の拡大が継続する中、幅広い業種で業績改善が進み、良好な企業決算が株式市場を支えました。一方、6月に成立した米国・イラン間の停戦合意が、交渉の進展を欠いたまま失効し、中東情勢の不透明感が再燃したことは重石となりました。月末にかけて開催された経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」では、ウォーシュ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の発言が物価情勢に対してタカ派的と受け止められたことで、米国債利回りが上昇しました。米国を中心に世界的な金利上昇が続くなか、ベッセント米財務長官は流通市場における既発債買戻しプログラムの拡充方針を発表しました。

◆ 運用経過

引き続き、半導体産業の中長期的な拡大に伴い、業績面で恩恵を受けることが期待される銘柄に積極的な投資を実施しました。

当月の基準価額は上昇しました。個別銘柄では、半導体メモリーを手掛ける米マイクロン・テクノロジー(情報技術)が上昇しました。同業他社が投資家向けイベントにおいて良好な中長期見通しを発表したことなどが材料となりました。一方、ハードディスクドライブを手掛ける米ウエスタンデジタル(情報技術)は、堅調な2026年4-6月期決算を発表したものの、業績見通しが保守的であったことなどから下落しました。

◆ 今後の運用方針

株式市場では、良好な企業業績と金利上昇との綱引きが続き、高値圏でもみ合う展開となっています。中東情勢は依然として不透明であり、原油価格の押し上げ要因となっているものの、投資家のインフレ期待は総じて安定しています。足元の金利上昇には、債券需給の悪化に加え、ウォーシュFRB議長による政策運営スタイルの変化も影響しているとみられます。バーナンキ議長就任以降、FRBは将来の金融政策の方向性を事前に示唆する「フォワード・ガイダンス」を政策運営の重要な柱としてきましたが、ウォーシュ議長は、経済環境の変化に対する政策の柔軟性を高める観点から、その役割を後退させる方針を示しています。この方向性の転換は、政策の予見可能性を低下させ、資産価格のボラティリティを高める要因となり得る一方、政策エラーが減少し、インフレや経済成長の安定性が高まるのであれば、中期的には資産価格にプラスに働く可能性もあり、両面性を持つと考えています。いずれにしても、現在は新体制発足直後の過渡期にあり、市場が新たな「反応関数」を見極めるまでは、相応の変動性が続くとみています。11月には米国中間選挙を控えており、イラン情勢を受けて支持率が低下した共和党の苦戦が予想されます。政治・経済の両面で先行きの見通しが立てにくい状況下において、株式市場のボラティリティは今後高まる可能性があります。こうした環境では、着実な業績成長を実現できる企業の「質」が、株価パフォーマンスを左右する重要な要素になると考えます。

投資チームでは、半導体サプライチェーンへの取材を通じて、AIインフラ向け半導体に対する旺盛な需要が継続していると判断しています。AI半導体を手掛ける米エヌビディアが発表した2026年5-7月期決算は良好であり、好調な来期(2028年1月期)の売上見通しも示しました。非常に強い見通しを示したにもかかわらず、会社は供給制約が業績成長を抑制しているとの見方を示しており、AI向け計算資源に対する需要の強さを示す内容であったと考えます。

投資チームでは、半導体関連企業は中長期的な成長余地が大きく、魅力的な投資機会を提供していると考えています。新しい技術分野への半導体の活用拡大と、それに向けた量産の進展は、当ファンドが保有する半導体関連企業の業績にとって追い風になると考えます。

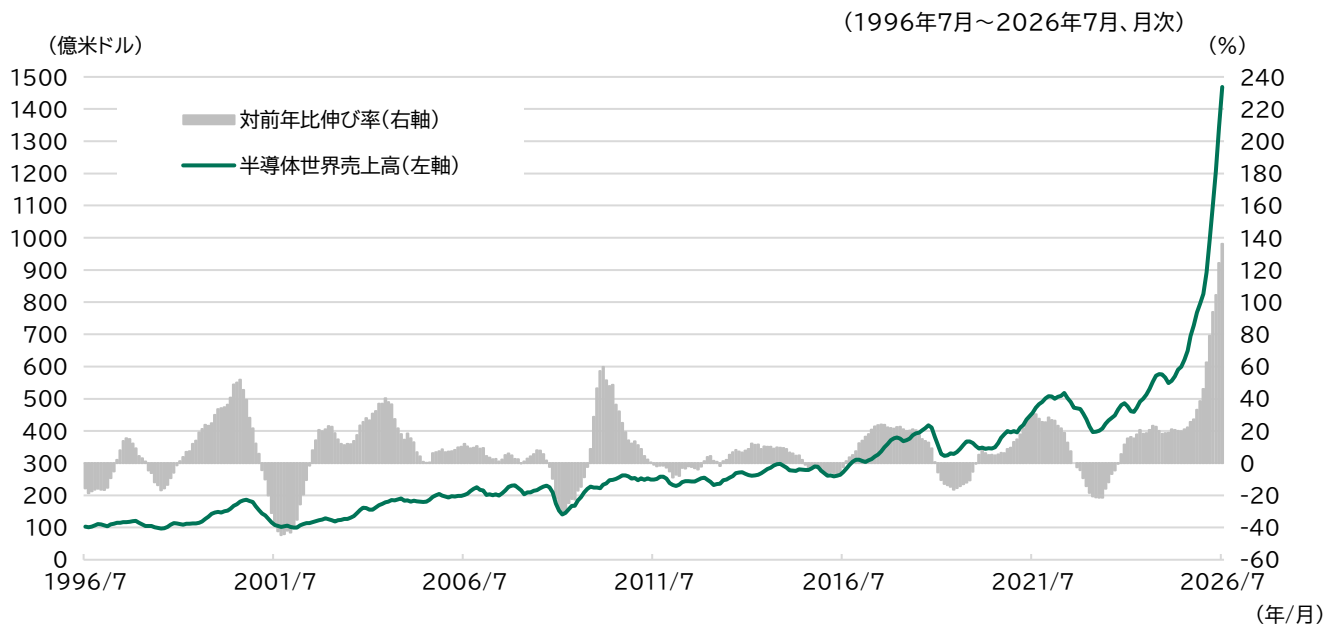
引き続き、徹底したボトムアップ・リサーチを通じて、半導体産業の拡大に伴い業績成長が期待できる企業を選定し、バリュエーションにも注意を払った運用を実施して参ります。

※当ファンドが高位に組入れております「Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス)」のファンドマネージャーコメントを基に作成しています。

※今後の運用方針等は、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。また、市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

ご参考

◆ 半導体世界売上高の推移



(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

◆ 半導体関連トピックス

エヌビディアの第2四半期売上高は予想を上回る

(2026年8月27日)

エヌビディアは、2026年8月27日、2026年7月26日に終了した第2四半期の決算を発表し、売上高が前年同期比106%増の約962億ドルとなり、事前の市場予想の922億ドルを上回った。データセンターの売上高は同117%増の890億ドルとなり、事前の市場予想の約850億ドルを上回り、調整後1株当たり利益も2.22ドルと、事前の市場予想の2.10ドルを上回った。

会社側は、2026年10月31日に終了する第3四半期の売上高見通しについて、1,080億ドル(±2%)を見込んでおり、事前の市場予想である1,042億ドルを上回った。また、2028年度(2027年2月～2028年1月)の売上高についても、前年度比約70%増との見通しを示し、市場予想の約44%増を上回る内容となった。

次世代システム「Vera Rubin(ヴェラ・ルービン)」は8月に量産出荷を開始し、すでに主要なハイパースケーラー、AIクラウド、システムメーカーから注文を受けている。会社側は、Vera Rubinがエヌビディア史上最も速く立ち上がる製品になると予想し、第3四半期には、データセンター売上高の約20%を占める見通しとした。

最高経営責任者(CEO)のジェンセン・ホアン氏は、「需要は加速している。複数のAI研究所が並行してスケールアップし、オープンモデルのエコシステム(連携)が活性化し、世界中で勢いを強めAIインフラの構築が本格化している。」と述べ、今後の見通しに自信を示した。

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

また、組入銘柄すべてのニュースを網羅しているわけではありません。巻末の<ご注意>をご確認ください。

(出所)各種報道等

ファンドの特色

- 1 以下の投資信託証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の取引所等に上場している半導体関連企業※の株式(これに準ずるものを含みます。)に投資します。

※半導体関連企業とは、半導体用途の多様化等による半導体産業の拡大から業績面で恩恵を受ける企業をいいます。

- Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス)
＜運用会社＞ニューバーガー・バーマン・インベストメント・アドバイザーズ・エル・エル・シー
- 日本マネー・マザーファンド

- 2 ポートフォリオの構築にあたっては、半導体関連企業の中から、ファンダメンタルズ分析を通じて成長性や株価バリュエーションを精査した上で銘柄を選定します。

- 3 Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス)の組入比率は、高位を保つことを基本とします。

- 4 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

● 分配方針

年2回、3月および9月の各月の16日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。
- 分配金額は、分配対象収益の範囲内で、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。

※委託会社の判断により、収益分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク(1)

■ 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

● 主な変動要因

株価変動リスク

株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

為替変動リスク

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。

特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク

ファンドは、特定の業種・テーマに関連する企業の株式を組み入れます。そのため、市場全体の値動きと比較して、基準価額の変動が大きくなる可能性があります。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

流動性リスク

有価証券等の時価総額が小さく、または取引量が少ないとき、市況の急変、取引所の閉鎖等により、有価証券等の売買価格が通常よりも著しく不利な価格となることがあります。

● その他の変動要因

カントリーリスク

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

投資リスク(2)

■ その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

お申込みメモ(1)

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払い下さい。 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	ありません。
購入・換金 申込不可日	以下に該当する日は、購入・換金申込の受付を行いません。 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ニューヨークの取引所の休業日
購入・換金 申込受付の 中止及び取消し	投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。

お申込みメモ(2)

信託期間	2045年9月15日まで(2023年9月20日設定) ただし、投資者に有利である場合等は、信託期間を延長することがあります。
繰上償還	投資信託財産の純資産総額が30億円を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
決算日	毎年3月16日および9月16日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。
信託金の限度額	5,000億円
公告	原則として、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 https://www.sbiokasan-am.co.jp
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用					
購入時手数料	購入金額(購入価額×購入口数)に、販売会社が独自に定める購入時手数料率を乗じて得た額 購入時手数料率の上限は、3.3%(税抜3.0%)です。 購入時手数料率は変更となる場合があります。 詳しくは販売会社にご確認下さい。			ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われます。	
信託財産留保額	ありません。				
投資者が信託財産で間接的に負担する費用					
運用管理費用 (信託報酬)	ファンド	配 分	純資産総額×年率1.298%(税抜1.18%)		
			委託会社	年率0.35%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。
			販売会社	年率0.80%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
		受託会社	年率0.03%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。	
		投資対象とする投資信託証券	Next Generation Semiconductor Fund(円建て、ヘッジなしクラス) 純資産総額×年率0.65%		
	実質的な負担	純資産総額×年率1.948%程度 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。			
その他費用・手数料	監査費用:純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)				
	有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。 ※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。				

※運用管理費用(信託報酬)、監査費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。その他費用・手数料(監査費用を除きます。)はその都度、投資信託財産から支払われます。

※ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

販売会社について(1)

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
岩井コスモ証券株式会社	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○	○	○	○
FFG証券株式会社	福岡財務支局長(金商)第5号	○			○
岡三ビジネス＆テクノロジー証券株式会社	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
香川証券株式会社	四国財務局長(金商)第3号	○			
九州FG証券株式会社	九州財務局長(金商)第18号	○			
静岡東海証券株式会社	東海財務局長(金商)第8号	○			
大熊本証券株式会社	九州財務局長(金商)第1号	○			
中銀証券株式会社	中国財務局長(金商)第6号	○			○
東洋証券株式会社	関東財務局長(金商)第121号	○			○
南都まほろば証券株式会社	近畿財務局長(金商)第25号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○			
水戸証券株式会社	関東財務局長(金商)第181号	○	○		
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	中国財務局長(金商)第8号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

※株式会社SBI証券は、一般社団法人日本STO協会にも加入しております。

販売会社について(2)

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(登録金融機関)					
株式会社鹿児島銀行(委託金融商品 取引業者:九州FG証券株式会社)	九州財務局長(登金)第2号	○			
株式会社北九州銀行	福岡財務支局長(登金)第117号	○		○	
株式会社紀陽銀行	近畿財務局長(登金)第8号	○			
株式会社熊本銀行	九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社群馬銀行	関東財務局長(登金)第46号	○		○	
株式会社三十三銀行	東海財務局長(登金)第16号	○			
株式会社十八親和銀行	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社荘内銀行	東北財務局長(登金)第6号	○			
株式会社筑邦銀行	福岡財務支局長(登金)第5号	○			
株式会社千葉興業銀行	関東財務局長(登金)第40号	○			
株式会社中国銀行	中国財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社東和銀行	関東財務局長(登金)第60号	○			
株式会社トマト銀行	中国財務局長(登金)第11号	○			
株式会社肥後銀行(委託金融商品取 引業者:九州FG証券株式会社)	九州財務局長(登金)第3号	○			
株式会社百十四銀行	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社福岡銀行	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	
株式会社福島銀行	東北財務局長(登金)第18号	○			
株式会社北都銀行	東北財務局長(登金)第10号	○			
株式会社宮崎銀行	九州財務局長(登金)第5号	○			
株式会社もみじ銀行	中国財務局長(登金)第12号	○		○	
株式会社山形銀行	東北財務局長(登金)第12号	○			
株式会社山口銀行	中国財務局長(登金)第6号	○		○	
株式会社山梨中央銀行	関東財務局長(登金)第41号	○			

委 託 会 社 SBI岡三アセットマネジメント株式会社
(ファンドの運用の指図を行います。)
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
加入協会:一般社団法人資産運用業協会

電話番号 03-3516-1300
(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)
ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

受 託 会 社 三菱UFJ信託銀行株式会社
(ファンドの財産の保管及び管理を行います。)

<ご注意>

- 本資料はSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した資料です。購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。投資信託説明書(交付目論見書)の交付場所につきましては「販売会社について」でご確認ください。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

2026 年 9 月

投資者の皆さまへ

SBI 岡三アセットマネジメント株式会社

「世界半導体関連フォーカスファンド」
月次運用レポートの掲載内容の見直しについて

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社投資信託「世界半導体関連フォーカスファンド」の月次運用レポートにつきまして、下記の通り、見直しを行いますのでお知らせいたします。

敬具

記

①見直し内容

現在の販売用資料のモチーフを取り入れた月次運用レポートのデザインから、当社月次運用レポート標準フォーマットに変更いたします。

②見直しを行う理由

月次運用レポート全体の視認性を高め、当ファンドの運用状況および投資成果に関する主要な情報をご確認いただきやすい構成とすることを目的として、当社月次運用レポート標準フォーマットに変更することといたしました。

なお、本件は月次運用レポートの掲載内容および掲載形式を整理するものであり、当ファンドの運用方針、運用プロセス、リスク特性等に変更はございません。

③見直しを行う時期

2026 年 9 月末基準（2026 年 10 月発行分）より

以上